

3.4 放置自転車対策の推進

JR 駅やモノレール駅周辺を中心に、定期的な放置自転車の撤去や駐輪指導などの対策を実施してきた結果、自転車放置禁止区域内の放置自転車の撤去台数は、令和7年度末で805台と令和元年度末から約4割減少しています。また、令和4年4月には、八幡東区東田地区における大型商業施設の開業に伴い、自転車利用者が増加することが見込まれたため、スペースワールド駅前を自転車放置禁止区域に指定しました。

また、主要な駅周辺を中心に、「駐輪指導員」を配置し、自転車利用者に対し、適切な駐輪に関する啓発や駐輪施設への誘導などを実施しました。そのほか、街頭啓発や高校生への放置自転車に関する啓発パンフレットの配布など駐輪ルールに関する啓発を行っています。

しかしながら、市街地や鉄道駅などの周辺では、依然として放置自転車が課題となっています。

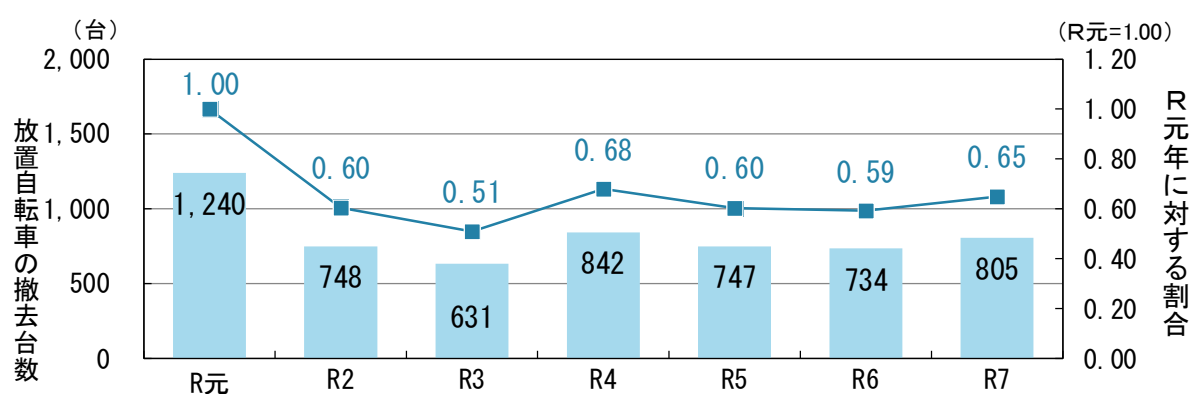


図 放置禁止区域内の放置自転車撤去台数の推移

資料：北九州市道路維持課

＜放置された自転車＞



＜放置自転車の撤去＞



＜駐輪指導員による啓発＞



＜啓発パンフレット＞



資料：北九州市道路維持課

【課題】 放置自転車対策の推進

放置自転車の撤去や駐輪ルール・マナーの啓発により、放置自転車の数は減少傾向にあるものの、近年は、横ばいの状況が続いています。

自転車や歩行者の通行阻害や都市景観の悪化などの要因となる放置自転車を抑制するためには、駐輪施設の整備とあわせて、放置自転車の撤去のほか、駐輪ルール・マナーの啓発などの対策に取り組んでいく必要があります。

3.5 シェアサイクル事業の推進

本市では、公共交通の機能補完やまちの回遊性の向上、周遊観光の促進に寄与する新たな移動手段として、令和3年10月よりシェアサイクル事業「ミクチャリ」のサービスを開始しました。本事業は小倉都心部を中心に、八幡東区、戸畑区、小倉南区へとエリアを順次拡大しており、令和8年3月時点において市内52箇所のステーション、150台の自転車を配置しています。

さらに、令和6年10月には、小倉北区において、電動キックボードや電動アシスト自転車等による「電動マイクロモビリティ」のシェアリングサービス「LUUP」が導入されました。同サービスは令和8年3月時点において96箇所のポート、125台の自転車を配置し、事業が展開されています。

これらのサービスは、IoT技術を活用した専用アプリにより、スマートフォンの上でステーションの検索から利用予約、決済までの一連の手続きを完結できるなど、高い利便性を備えています。

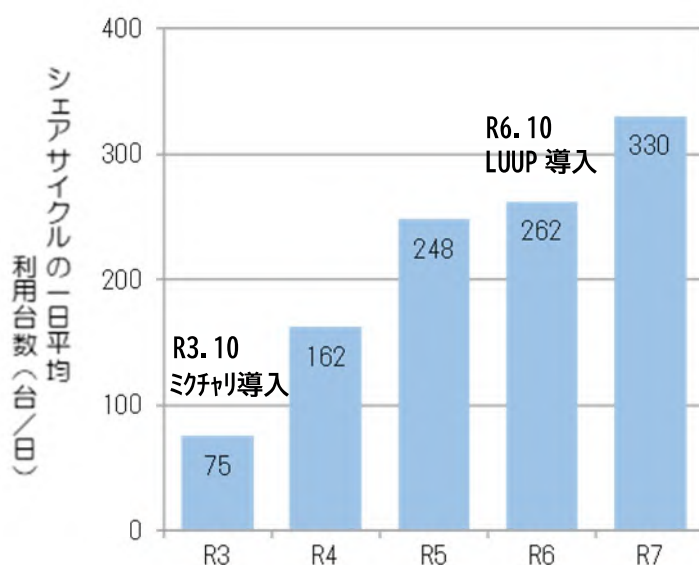


図 シェアサイクルの一日平均利用台数の推移

		令和3年度	令和7年度
ステーション数	ミクチャリ	26 箇所	52 箇所
	LUUP	—	96 箇所
	合計	26 箇所	148 箇所
自転車台数	ミクチャリ	150 台	150 台
	LUUP	—	125 台
	合計	150 台	275 台
一日平均利用台数		75 台/日	330 台/日

表 ステーション数と利用台数の推移

※サービス開始時期

ミクチャリ：令和3年10月

LUUP：令和6年10月



いつでも、どこでも気軽に利用ができます！

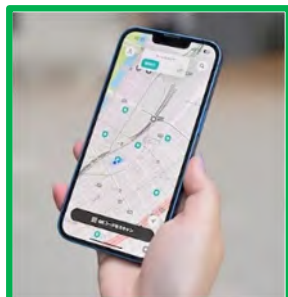


24時間スマホで
簡単登録



どこでも借りて
どこでも返せる

資料：スマートサイクルライフ北九州 HP



資料：LUUP HP

<ミクチャリステーション>



<LUUP ポート>



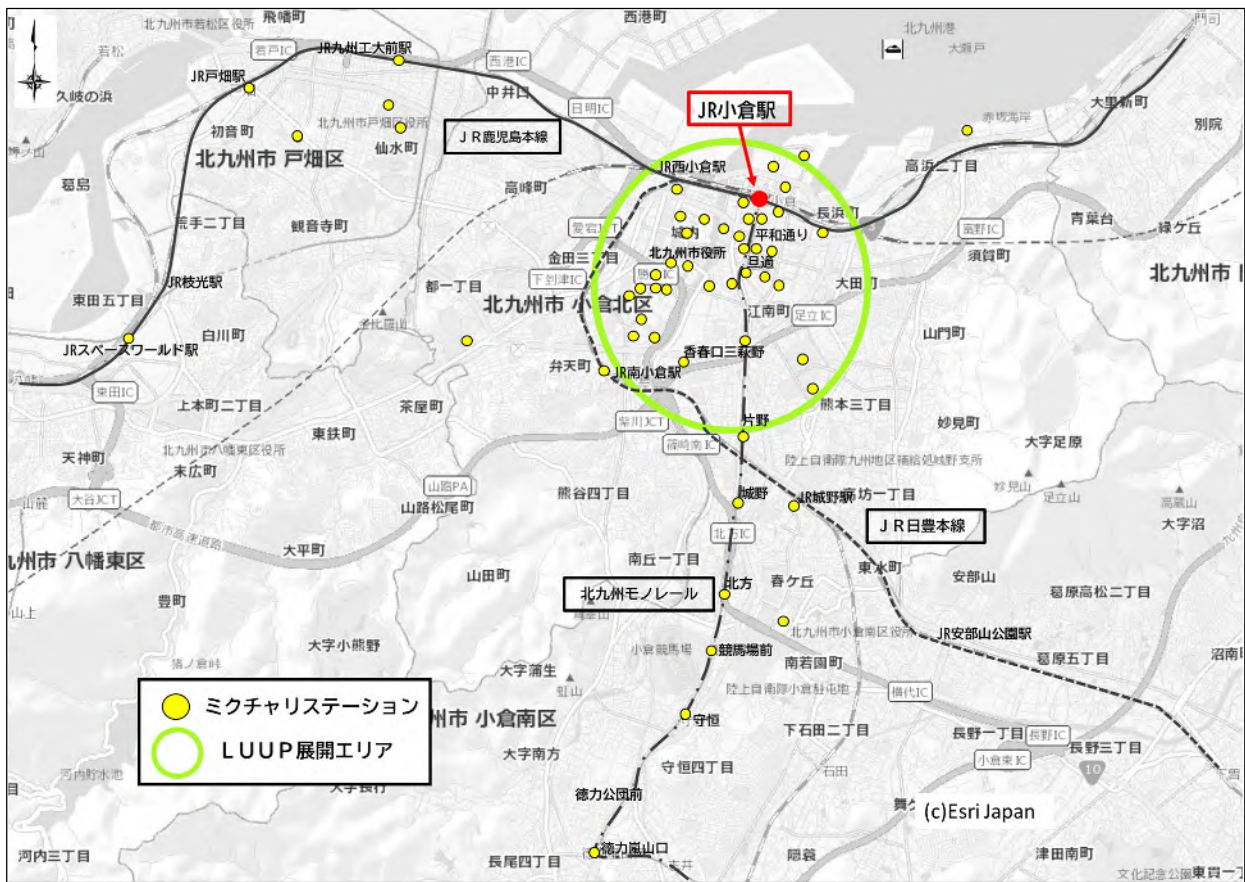


図 シェアサイクルステーション位置図

【課題】 シェアサイクル事業の推進

「ミクチャリ」や「LUUP」の導入により、利用する距離や目的地などによる使い分けが可能になるなど、利用者にとって利便性が向上したことで、利用台数は、増加傾向にあります。公共交通の機能補完やまちの回遊性向上につなげるには、シェアサイクルのさらなる利用促進を図る必要があるため、今後も利用者ニーズや公共交通との連携などを踏まえた、効果的なステーションの配置や拡大などに取り組む必要があります。

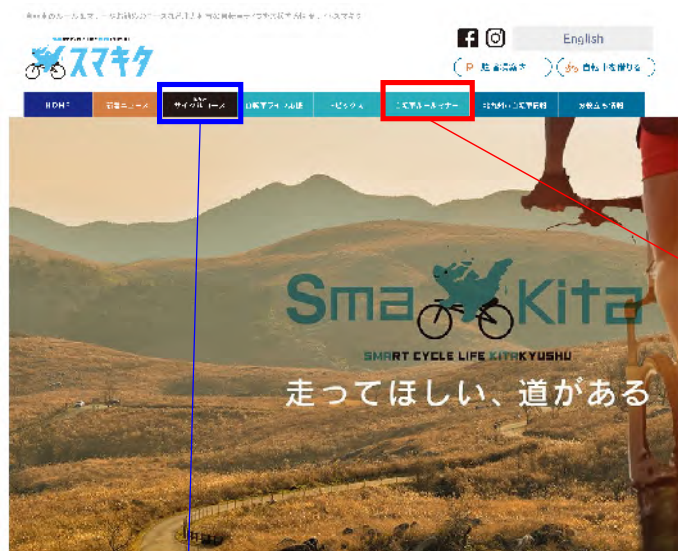
3.6 自転車に関する情報発信

自転車の利用促進に向け、平成26年2月に自転車に関する総合情報ウェブサイト「スマートサイクルライフ北九州」を開設しました。

市内のおすすめのサイクリングコースや自転車のルール・マナーをはじめとする自転車の利用に役立つ情報、サイクリストへのインタビューやサイクリイベントなどの自転車に関する情報を各種、発信しています。

(令和7年度における1日平均閲覧数は181回)

<スマートサイクルライフ北九州>



<自転車のルール・マナーの情報発信>



<サイクリコースの紹介【河内・道原サイクリングロード】>

コース概要

スペースワールド駅を出発。河内貯水池の美しい重力式コンクリートダムをぐるっと巡り、鱒淵貯水池へむかう河内・道原サイクリングロード

道原・河内サイクリングロードは「鱒淵貯水池」と「河内貯水池」の周縁に整備されたサイクリングロード。ぐるっとダムを走りながら、家族やカップルでサイクリングをするのにもおすすめ。スマキタではスペースワールド駅を起点として、道原・河内の両方のサイクリングロードをめぐる全長約49.2kmをロングコースとして紹介しています。

道原・河内サイクリングロードは道が広く走りやすい箇所があります。十分注意して走行してください。



資料：スマートサイクルライフ北九州 HP

【課題】自転車に関する情報発信

市民が手軽にアクセス可能なウェブサイトは、情報発信や広報・啓発に有効な手段です。

国の動向や市の取り組みといった市民の関心が高い情報をタイムリーに反映させるほか、自転車を利用したくなるような楽しいコンテンツの充実を図るなど、市民の利便性に資する効果的な情報発信に努め、閲覧数を伸ばすための取り組みを継続的に推進していく必要があります。

3.7 自転車利用の促進

(1) 健康増進に関する広報・啓発

多忙やきっかけ不足などの理由により運動習慣のない市民が、日常生活の中で気軽に健康づくりに取り組めるように、自転車等を活用した健康増進に関する広報・啓発を行っています。

市民アンケート調査では、6割以上の自転車利用者が「体力・脚力の向上効果」を実感しており、その他、ストレス解消や脂肪燃焼などの効果もあると回答しています。

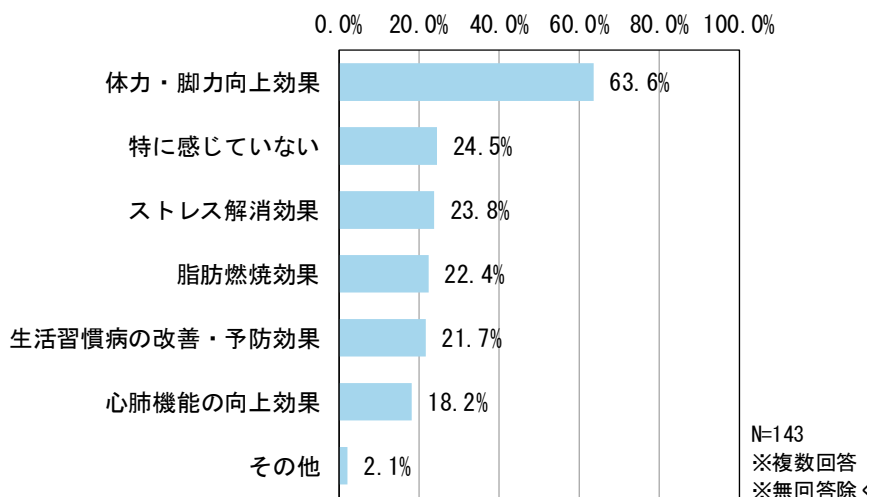


図 自転車を利用することで得られると感じる健康への効果

資料：市民アンケート（R8.1）

(2) 自転車通勤の促進

日常生活における運動機会の創出や市民の健康維持・増進を図るため、自転車通勤の促進に向けた情報発信に取り組んでいます。

しかし、市民アンケート調査によると、自転車を「月に数日以上利用する」と回答した人の割合は17%にとどまっており、日常的な利用については依然として低い水準にあります。

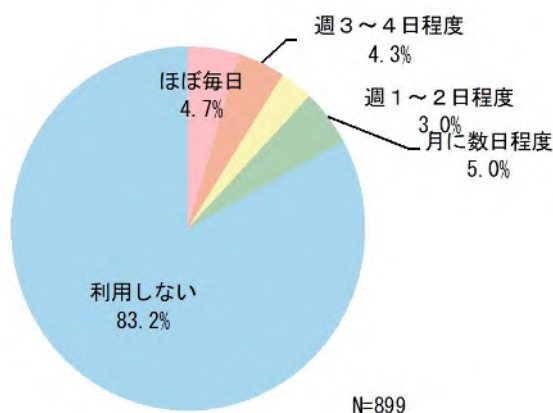


図 自転車の利用頻度

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

【課題】 自転車の利用促進

市民アンケートにおいて、依然として自転車の利用頻度は、低い水準になっています。

今後は、身近な移動手段である自転車の利用を促進し、短・中距離の移動を自動車から自転車へ転換させることで、脱炭素社会の実現に寄与するとともに、通勤や買い物といった日常の移動における健康づくりにも繋げていく必要があります。

(3) 自転車貸出し施設の活用

本市では、自転車を活用したスポーツ・レクリエーション活動の促進を図るため、「河内サイクリングセンター」および「響灘緑地サイクリングターミナル」の運営を行っています。

河内サイクリングセンターでは、河内貯水池周辺の豊かな自然環境を活かし、四季折々の風景を楽しみながら走行できる環境を提供しています。また、響灘緑地サイクリングターミナルでは、タンデム二人乗り自転車やお子様乗せ自転車等を配備しています。子どもから大人まで幅広い世代が自転車に親しめる環境を整えることで、家族連れを中心としたレクリエーション拠点として機能しています。

また市民アンケート調査では、両施設の市民への認知度は、半数程度に留まっています。

＜河内サイクリングセンター＞



＜響灘緑地サイクリングターミナル＞

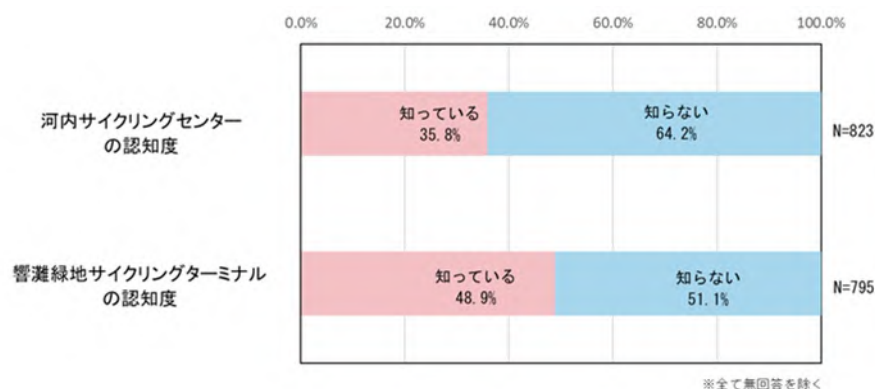


図 河内サイクリングセンターと響灘緑地サイクリングターミナルの認知度

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

【課題】自転車貸出し施設の利用促進

市民の運動習慣の定着や、子どもたちが自転車の楽しさを体験する機会の提供を通じ、自転車の日常利用へと繋げていくため、既存の自転車貸出し施設を有効に活用していくことが重要です。施設の認知度を向上させ、さらなる利用者の拡大を図るため、情報発信や魅力あるイベントの開催など、利用促進に向けた取り組みを推進していく必要があります。

3.8 サイクルツーリズムの推進

全国的なサイクルツーリズム推進の機運の高まりを受け、平成30年5月に、福岡県および本市を含む県内市町村、関係団体等で構成される「福岡県サイクルツーリズム推進協議会」が設立されました。同協議会では、福岡県内において10の「広域モデルルート」を設定し、サイクリストの受入環境の整備や情報発信などに取り組んでいます。

本市に関連する2ルートのうち、取り組みを進めている「北九州（門司）・京築ルート」については、令和7年度末時点で、案内表示の設置など計4kmの整備が完了しています。



図 福岡県サイクルツーリズム広域モデルルート(10ルート)

資料：福岡県

＜路面標示・案内板＞



＜矢羽根型路面標示＞



北九州（門司）・京築ルートの整備例

【課題】サイクルツーリズムの推進

近年、国内外の旅行者のニーズは、買い物主体の「モノ消費」から、体験型観光である「コト消費」へとシフトしています。これに伴い、地域を巡り、沿線の魅力を楽しむ体験や交流ができる自転車を活用した観光地域づくりが進められています。

本市においても、新たな魅力を創出し、多くの観光客を誘致するためには、県をはじめとする関係団体と連携し、広域モデルルートの計画的な整備やサイクルラックの設置を支援するなど受入環境の整備を着実に進め、サイクルツーリズムを推進していく必要があります。